

日本保健物理学会「教員等協議会・若手研・学友会」代表者会議（第14回）

日時：令和3年9月22日（水）9時-10時

参加者：（教員等協議会）飯本（理事）、安岡（理事）

（若手研）迫田（理事）、廣田（参与）、辻、中畠

概要：

●若手研の今後

- ・次期の若手研幹事団への引き継ぎを考える時期。幹事団が試行錯誤したことが次期に引き継がれていくようにしたい。
- ・若手研の資料を保存している広島大学 wiki や SNS のアカウントも引き継がなければならない。
- ・大学のサーバではなく学会のサーバを利用できるようにした方が良い。事務局に働きかければ実現できるのではないか。

●合同大会若手研セッション

- ・本セッションは保物若手研のセッションなのか、合同セッションなのか。これによって計画の進め方が変わってくる。
- ・（保物若手研セッションの場合）とりまとめは辻主査が中心となってテーマ案を考案し、安岡理事を通じて連携WG（放射線安全管理学会側）へ働きかける。
- ・放射線安全管理学会には若手の組織がないため、双方の若手が相談して決めるというより、保物若手研がテーマ案を提示し、それに賛同いただける方を推薦いただく方針が良い。
- ・「連携」は、研究に関することというより分野の連携に関することを考えている。
- ・アンケート結果等を基にテーマ案を検討する。
- ・キャリアアップも連携のテーマにできないか。
- ・「キャリアアップ」という言葉は様々なところで使われるが、具体的にどうすれば良いのか。→現場を持ちながら研究をしている学会員にとって、公募に通るコツなど、キャリアアップの実例は参考になるのではないか。
- ・採用基準分野に保健物理や安全管理が含まれるべき。「こんなにいい人がいるのに通らない」ということがないように、世代に応じてそれぞれにすべきことがある。
- ・管理のポストについても大学、民間、研究所などで扱いが異なっているのではないか。

●若手研枠で委員会などに選出されているメンバーのリストアップ

- ・委員会などには多くの若手が参加しているが、若手研の枠として参画している人と個人として参加している人とを区別して認識しておくべき。

理事会参与：廣田

企画委員会：廣田、山田

コミュニケーション委員会：片岡、三輪

連携 WG：外間

若手主査：辻

若手幹事：渡邊

- ・国際対応委員会の石川氏の枠は、以前は若手研枠として様々な情報を若手研に共有いただいていたが、最近は個人参加の印象が強い

●保健物理学会&放射線安全管理学会連携 WG

- ・保健物理学会側の若手として外間氏（JAEA）に決まった。
- ・安全管理学会側は若手を選出せず、渡部理事、桧垣理事の2名体制となった。

●若手へのアプローチ

- ・若手への勧誘メールが2通目（飯本理事、辻主査）まで配信されている。3通目は安岡理事から。
- ・近年の研究発表会での発表者と若手の名簿を突き合わせると、新たに携わってくれそうな若手が見つかるのではないか。その作業を学生にアルバイトとして委託しても良い。
- ・各大学の大学院募集が始まるので Twitter で積極的に発信していく。

●次回日程

10月19日（火）9:00-10:00

以上